

安全データシート(SDS)

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	: 70%消毒用イソプロパノール「ニッコー」 (イソプロピルアルコール70%水溶液)
化学品の英語名称	: 70%ISOPROPANOL FOR DISINFECTION 「NIKKO」
供給者の会社名称	: 日興製薬株式会社
住所	: 岐阜県羽島市上中町一色467-1
電話番号	: 058-398-2576 信頼性保証部
ファクシミリ番号	: 058-398-5863
推奨用途	: 手指・皮膚の消毒 医療機器の消毒

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

物理化学的危険性	: 引火性液体	区分2
健康に対する有害性	: 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分2
	: 生殖毒性	区分2
	: 特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1(中枢神経系)
	: 特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分3(気道刺激性) 区分1(血液系)
環境に対する有害性	: 分類対象外	区分2(呼吸器、肝臓、脾臓)

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

: H225 引火性の高い液体及び蒸気
H319 強い眼刺激
H335 呼吸器への刺激のおそれ
H361 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
H370 中枢神経系の障害
H372 長期にわたる、又は反復ばく露による血液の障害
H373 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器、肝臓、脾臓の障害のおそれ

注意書き

安全対策

: P203 使用前に全ての安全説明書を入手し、読み、従うこと。
P210 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P233 容器を密閉しておくこと。
P240 容器を接地しアースをとること。
P241 防爆型の機器を使用すること。
P242 火花を発生させない工具を使用すること。
P243 静電気放電に対する措置を講ずること。
P260 ミスト／蒸気を吸入しないこと。
P264+P265 取扱い後は手をよく洗うこと。眼を触らないこと。
P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
P271 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
P280 保護手袋／保護眼鏡を着用すること。

応急措置

: P303+P361+P353 皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。接触部位を水で洗うこと。
P304+P340 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P305+P351+P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

	P308+P316 ばく露又はその懸念がある場合：すぐに救急の医療処置を受けること。 P318 ばく露又はその懸念がある場合は、医学的助言を求めるこ P319 気分が悪いときは、医療処置を受けること。 P337+P317 眼の刺激が続く場合：医療処置を受けること。 P370+P378 火災の場合：消火するために適切な消火剤（粉末、泡、二酸化炭素等）を使用すること。
保管	: P403+P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 P403+P235 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。 P405 施錠して保管すること。
廃棄	: P501 内容物／容器を法令に従い適切に廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の區別

: 混合物

成分及び濃度又は濃度範囲

成分名 (化学名又は一般名)	濃度(vol%)	官報公示整理番号	CAS番号
イソプロピルアルコール	70	(2)-207 (化審法) 2-(8)-319 (安衛法)	67-63-0
精製水	残分	-	7732-18-5

(注)本製品の濃度はvol%管理であり、混合物分類や評価において重量%換算値を用いる場合がある。

4. 応急措置

吸入した場合

: 被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で安静にさせること。
気分が悪い場合、咳、喉の刺激等の症状が続く場合は、医師の診察／手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

: 直ちに汚染された衣類、履物をすべて脱がせること。
付着した部分を多量の水で十分に洗い流すこと。
皮膚刺激等の症状が現れた場合、又は症状が持続する場合は、医師の診察／手当てを受けること。

眼に入った場合

: 汚染された衣類は再使用する前に洗濯すること。
: 直ちに清浄な流水で数分間注意深く洗眼すること。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

: 口をすすぐこと。
無理に吐かせないこと。
気分が悪い場合は、医師の診察／手当てを受けること。
: 救助者は、適切な保護具（保護手袋、保護眼鏡等）を着用すること。
蒸気の吸入を避けるため、換気の良い場所で対応すること。

応急措置をする者の保護に必要な
注意事項

: 火気、着火源を近づけないこと。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

: 周囲の火災の状況に応じて、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡、水噴霧を使用する。

使ってはならない消火剤

: 棒状放水（火炎を拡大し、飛散・延焼の危険がある）。

火災時の特有の危険有害性

: 本製品はイソプロパノールを含有する水溶液であり、燃焼性・引火性はイソプロパノール濃度および条件に依存して変化する。加熱された場合、可燃性蒸気を発生するおそれがある。加熱により容器内圧が上昇し、容器が破裂するおそれがある。燃焼又は高温下では、一酸化炭素、二酸化炭素等の有害なガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

: 可能であれば、火災発生場所から危険物を安全な場所に移動させること。
移動不可能な場合は、容器及びその周囲を散水して冷却すること。
蒸気の再着火を防止するため、適切な消火剤を用いて完全に消火すること。
火災現場周辺への不要な立入りを禁止すること。

消火活動を行うものの特別な
保護具及び予防措置

: 消火作業を行う際は、適切な保護具（耐熱性保護衣、保護手袋、保護眼鏡等）及び自給式呼吸器を着用すること。
風上から消火活動を行い、有害ガスの吸入を避けること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置

: 漏出区域から関係者以外を退避させ、周囲への立入りを制限すること。
蒸気の吸入を避けるため、換気を十分に行うこと。
皮膚及び眼への接触を避けること。

環境に対する注意事項	処理作業を行う際は、保護手袋、保護眼鏡等の適切な保護具を着用すること。 火気、熱源、火花、裸火その他の着火源を速やかに除去すること。禁煙。 静電気放電による着火を防止するため、適切な接地・アースを行うこと。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	: 排水溝、下水道、河川、湖沼等へ流出しないよう注意すること。 環境中へ放出された場合は、関係機関に連絡すること。 : 少量の場合 不燃性の吸収材(乾燥砂、土、吸着マット等)に吸収させ、密閉可能な容器に回収すること。 : 大量の場合 漏出物の周囲に土嚢等で囲いを設け、拡散を防止した後、回収すること。 回収後の残留物は、多量の水で洗い流すこと。ただし排水先に注意すること。 使用した吸収材及び回収物は、法令に従って適切に廃棄すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- : 引火性があるため、熱源、高温のもの、火花、裸火その他の着火源から遠ざけ、取扱い中は禁煙とすること。
容器および取扱設備は接地し、静電気放電を防止すること。
可能な限り防爆構造の電気機器、換気装置、照明等を使用し、火花を発生しない工具を用いること。
静電気による引火のおそれがあるため、適切な静電気放電防止対策を講ずること。
ミスト又は蒸気の発生を最小限に抑え、吸入を避けること。
屋外又は十分に換気された場所でのみ使用すること。
皮膚及び眼への接触を避け、取扱い後は手をよく洗い、眼を触らないこと。
作業条件に応じて、保護手袋、保護眼鏡等の適切な保護具を着用すること。

安全取扱注意事項

- : 容器は常に密閉し、内容物の漏えい及び蒸気の放散を防止すること。
移し替え作業の際は、容器間の電位差をなくすために確実に接地を行うこと。
作業場所では飲食、喫煙を行わないこと。
床へのこぼれ、飛散が生じた場合は速やかに回収し、蒸気の滞留を防止すること。
蒸気は空気より重く低所に滞留しやすいため、ピット、排水溝等には特に注意すること。
強酸化剤等との混触を避けること。

保管

安全な保管条件

- : 換気の良い涼しい場所で保管すること。
容器は密閉した状態で保管すること。
火気、熱源、直射日光を避けること。
内容物が漏えいした場合に拡散しないよう、床面は不浸透性で漏えい対策が施された場所が望ましい。
誤使用、防災上の観点から、施錠可能な場所に保管すること。
強酸化剤、危険物等とは区分して保管すること。

安全な容器包装材料

- : 出荷時に充填された容器のまま使用・保管し、他の容器に移し替えない。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等(成分としての値)

イソプロピルアルコール

日本産業衛生学会

ACGIH(TLV)

OSHA(PEL)

設備対策

- : 400 ppm (980 mg/m³)
: TWA 200 ppm, STEL 400 ppm
: 400 ppm (8時間TWA)

- : 蒸気又はミストの発生を抑制するため、工程の密閉化又は局部排気装置を設置すること。
作業場所全体の換気を十分に行い、蒸気の滞留を防止すること。
引火性があるため、換気設備、照明及び電気機器は防爆仕様とすることが望ましい。
静電気による着火を防止するため、容器及び関連設備は接地すること。

保護具

呼吸用保護具

- : 通常の取扱いでは特別な保護具は不要である。
換気が不十分な場合、又は蒸気濃度が上昇するおそれがある場合は、有機ガス用防毒マスクを着用すること。

手の保護具

眼の保護具

- : 耐溶剤性の保護手袋(ニトリルゴム、ブチルゴム等)を着用すること。
飛散又はね返りのおそれがある場合は、保護眼鏡又はフェイスシールドを着用すること。

皮膚及び身体の保護具

- : 作業条件に応じて、耐溶剤性の作業衣、保護衣等を着用すること。
汚染された衣類は速やかに脱ぎ、再使用前に洗濯すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
色	: 無色透明
臭い	: イソプロピルアルコール特有のにおい
融点/凝固点	: データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	: データなし
可燃性	: データなし(混合物として測定していない。引火性・燃焼性は濃度および条件に依存) (参考:成分 IPA は可燃性に該当)
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	: データなし(混合物として測定は実施していない) (参考:成分 IPA は2.0～12.7vol%)
引火点	: 約21°C前後 (参考:成分 IPA の引火点 約 12 °C(密閉式))
自然発火点	: データなし(混合物として測定は実施していない) (参考:成分 IPA の自然発火点 456 °C)
分解温度	: データなし
pH	: データなし
動粘性率	: データなし
溶解度	: 水と混和する
n-オクタノール／水分配係数	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び／又は相対密度	: 相対密度 0.88(20°C)
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: 非該当

10. 安定性及び反応性

反応性	: 通常の使用条件及び保管条件において、特異な反応性はない。
化学的安定性	: 推奨される保管条件及び通常の取扱条件下において安定である。
危険有害反応可能性	: 通常の使用条件において、危険有害な反応は発生しない。
避けるべき条件	: 高温、熱源、火花、裸火等の着火源。
混触危険物質	: 強酸化剤、強塩基。
危険有害な分解生成物	: 不完全燃焼させた時、一酸化炭素が発生する恐れがある。

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	: IPAの急性毒性は原薬で ラット LD ₅₀ =4,384～5,840 mg/kg の報告があるが、本製品は希釈混合物であり、混合物 ATE 算出の結果、区分該当閾値(区分4:2,000 mg/kg)を超えたため、本製品としては区分に該当しない。
経皮	: IPAの急性毒性は 経皮 LD ₅₀ (ウサギ)約 12,870 mg/kg の報告がある。本製品は希釈混合物であり、混合物 ATE 算出の結果、急性毒性(経皮)の区分該当閾値(区分4:2,000 mg/kg)を大きく上回るため、本製品としては区分に該当しない。
吸入:蒸気	: IPAの急性毒性はラット 4h LC ₅₀ (蒸気)=68.5～72.6 mg/Lの報告がある。本製品は希釈混合物であり、混合物 ATE(吸入)の換算において区分該当閾値(区分4:LC ₅₀ ≤ 20 mg/L(蒸気)相当の基準)に達しないと評価されるため、本製品としては区分に該当しない。
皮膚腐食性／刺激性	: IPAの動物・ヒトデータから軽微～軽度の刺激性が示唆され、JIS基準では区分外(国連分類では区分3相当)に区分されている。本製品は希釈混合物であることからより強い刺激性は想定しにくいことから、本製品として区分に該当しない。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: IPAで軽度～重度の眼刺激性が報告されており、区分2(眼刺激)。希釈しても眼刺激性は残存する可能性があるため、本製品としても区分2の注意喚起を行う。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: IPAについて感作性の明確な報告なし。本製品も該当しないと判断した。
生殖細胞変異原性	: IPAで in vivo 小核試験・染色体異常試験が陰性、in vitro 変異原性試験も陰性の報告がある。一方で in vitro 染色体異常試験のデータが欠落しており、網羅的な陰性が確認できないため、データ不足で分類できない。
発がん性	: IPAは IARC グループ3/ACGIH A4に位置付けられており、本製品についても分類できないと判断した。
生殖毒性	: 成分であるイソプロピルアルコール(IPA)は、原料SDSにおいて生殖毒性 区分2に分類されている。本製品はIPAを70 vol%含有する混合物であり、混合物としての生殖毒性試験データはないため、原料SDSの分類情報を踏まえ、危険側評価として生殖毒性 区分2を採用する。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 成分であるイソプロピルアルコール(IPA)は、原料SDSにおいて特定標的臓器毒性(単回ばく露)区分1(中枢神経系、全身毒性)および区分3(気道刺激性)に分類されている。本製品はIPAを70 vol%含有する混合物であり、混合物としての試験データはないため、原料SDSの分類情報を踏まえ、危険側評価として区分1(中枢神経系)および区分3(気道刺激性)を採用する。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 成分であるイソプロピルアルコール(IPA)は、原料SDSにおいて特定標的臓器毒性

誤えん有害性	(反復ばく露) 区分1(血液系)および区分2(呼吸器、肝臓、脾臓)に分類されている。本製品はIPAを70 vol%含有する混合物であり、混合物としての反復ばく露毒性データはないため、原料SDSの分類情報を踏まえ、危険側評価として区分1(血液系)および区分2(呼吸器、肝臓、脾臓)を採用する。 : IPAは誤嚥時に化学性肺炎を起こす吸引性物質ではなく、本製品についてもそのような性質は認められていないため、区分に該当しない。
--------	--

12. 環境影響情報

生態毒性	: IPAは魚類・甲殻類・藻類に対して高い濃度でのみ影響が報告されており、急性・慢性ともに区分外とされている。本製品についても、環境影響が生じる濃度に至る可能性は低く、区分に該当しない。
残留性・分解性	: IPAは分解性が高く、環境中で速やかに分解されることが報告されている。
生態蓄積性	: IPAは生物蓄積性を示さない($\log K_{ow} = 0.05$)。
土壤中の移動性	: IPAは水に任意の割合で混和し、土壤中でも高い移動性を示すが、速やかに分解されるため環境残留性は低い。
オゾン層への有害性	: IPAはモントリオール議定書に規定されるオゾン層破壊物質ではない為、区分に該当しない。

13. 廃棄上の注意

化学品(残余廃棄物)、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	: 内容物は、関連法令及び地方自治体の基準に従い、適切に処理すること。 通常は、排水基準を満たしていることを確認のうえ、処理すること。 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
--	---

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号	: UN1219(ERG 2020 Guide 129)
品名(国際輸送名)	: ISOPROPANOL(ISOPROPYL ALCOHOL)
国連分類	: 3
容器等級	: II
海洋汚染物質	: 該当しない。

国内規制

海上規制情報	: 船舶安全法の規定に従う(海上輸送を行う場合)。
航空規制情報	: 航空法の規定に従う(航空輸送を行う場合)。
陸上規制情報	: 消防法の規定に従う。
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	: 運搬に際しては、容器に漏れのないことを確認すること。 転倒、落下、損傷等が生じないように取り扱うこと。 火気、高温及び直射日光を避けること。

15. 適用法令

消防法	: 第4類引火性液体、アルコール類
毒物及び劇物取締法	: 該当しない。
労働安全衛生法	: 名称等を表示・通知すべき危険有害物(法第57条、57条の2) リスクアセスメント対象物(法第57条の3)
有機溶剤中毒予防規則	: 第2種有機溶剤等(イソプロパノール含有) ※適用の要否は作業形態により異なる
化学物質管理促進法(PRTR法)	: 該当しない。
大気汚染防止法	: 該当しない。
海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律	: 該当しない。
航空法	: 引火性液体(危険物)
船舶安全法	: 引火性液体(危険物)
港則法	: 危険物
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	: 適用あり。

16. その他の情報

記載内容は現時点での入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関してはいかなる保証をするものではありません。また、新しい知見及び試験等により内容が変更されることがあります。

なお、注意事項は通常の取扱いを対象にしたものなので、特別な取扱いをする場合には、新たに用法・用途に適した安全対策を

実施のうえで御使用ください。御使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いいたします。